

## 日本の文化資源を広めるための協力

第3グループ：クリスティン・ウィリアムズ，ウェイン・アンドリュー・クロザース，アウローラ・カネパーリ

**Part 1.** 「もっと簡単に検索できるように」クリスティン・ウィリアムズ

1. これから「日本の文化資源を広めるための協力」について発表します。

2. このプレゼンテーションは私クリスティン・ウィリアムズとカネパーリさん、クロザースさんの三人で作成しました。今日はこの三つのポイントについて順に話します。

3. JALプロジェクトで様々な研究機関を訪れ、日本ではたくさんの専門的なデータベースが研究者によって作られているということに感銘を受けました。

しかし、グループディスカッションで浮かび上がった問題の一つに、「日本のデータベースは包括的な検索が難しい」という事がありました。

私は図書館司書として、どうやって効率的に情報を得る事が出来るかを学生や研究者に教える仕事があります。その中にはデータベースも含まれます。

4. JALで知ったデータベースも紹介したいのですが、もしたくさんのデータベースをまとめて検索できるようなひとつの検索ポータルがあれば、利用者にとってもっと使いやすくなると思います。

たくさんのデータを検索したい人は、大量のデータベースを別々に検索しなければなりません。

これは日本語が速く読めない人にとっては、研究の壁になり、どのように様々なウェブサイトやサーチエンジンを利用するか学ばなければいけません。

この問題を解決するために、たくさんの研究機関やデータベースを一度に検索できるポータルサイトがあればとても便利だと私は思います。

私たちはそのようなコンセプトを人間文化研究機構の統合検索システムや国立国会図書館サーチに見ることができました。

これらのサーチはきっかけとしてはとてもいいものだと思います。しかし、まだ効果的に情報を集約し、円滑な検索を目指すには改善の余地がある様に思います。

5. 研究機関同士の連携拡大は、一度に検索できるデータベースや資料の量を増やすことにつながります。

たとえば、私の所属するケンブリッジ大学図書館は約22の日本語古書や巻物をデジタルライブラリーでオンライン公開しています。

また、他にも多くの美術館がたくさんの浮世絵や版画、書籍をオンライン公開しています。

しかしながら、日本の利用者は日本の文化資料を検索するとき、海外のサイトへ見に行くことはしないでしょう。

すべての日本美術の画像や研究資料を探せる集約的な場所があれば素晴らしいと思います。

海外の機関との連携協力は難しい仕事です。しかし、メタデータの同一規格を使えば、もっと簡単に、情報のシェアや協力が行えるのではないかと期待します。

メタデータの同一規格の設定は、日本の文化資源を所有する海外の機関と、同じような資料を所有する日本の機関との連携を助けます。

それはゆくゆくは日本文化に関心のあるすべての人々の知識の増大とより良い情報検索へとつながっていくでしょう。

6. 最後に、私たちはプロジェクトで研究機関を訪れた中で、いくつかの研究機関は自身のアーカイブ、またはその中でもごく一部のコレクションのみを、その敷地内でのみ検索を許可しているということを知りました。

おそらく著作権制限のためであることはわかります。しかし、それぞれの研究機関ができる限り資料を公開することを望みます。

私たちは、将来、日本のアーカイブやその他の資料がインターネットを介して、もっとアクセス可能になることを心より望みます。

## Part 2. 「日本のデータベースを誰もが使えるように」 アウローラ・カネパーリ

私はこれからどのようにすれば日本のデータベースを誰もが使えるようになるか、お話しします。

私はイタリア人名の出、海外の利用者としての観点から、さまざまな問題に直面します。今日は、海外の利用者が上り越えなければならない障害について話したいと思います。

### 1. 日本語を知らない海外の利用者

まずはじめに、利用者にとって、日本語で書かれた情報や資料にたどり着くことがどれほど難しいことなのか想像してみてください。

彼らは日本文化に興味があり、日本の美術や伝統を世界へと広げる架け橋となり得る存在です。

例えば、私が働いていた美術館には、二人の日本語を話さないボランティアがいました。彼らは子供たちへの活動を通し、一生懸命に日本の伝統や美術を広めていました。

しかし、私が彼らと働き始めてすぐ、彼らが掴める情報と私が掴める情報の量に大きな差があることに気づきました。

また、インターネットを使って調べ物をする時、サーチエンジンにキーワードをひらがなで入力した時と、ローマ字で入力した時では、情報量だけでなく、情報の質にも変化があることを知りました。

### 2. 英語とローマ字表記のキーワードとタイトル

この問題の解決に、役立つのが英語とローマ字表記のキーワードとタイトルです。

インターネットで情報を広めるにあたって、助けとなるのが、英語とローマ字表記の併用です。一番便利なのは英語でのキーワードです。しかし特別な意味の日本語で、英語へ翻訳ができない時はローマ字表記でのキーワードが便利です。

論文や書籍、絵画、彫刻などの芸術品について調べる時にローマ字と英語、両方の表記があれ

ば、他にどの単語がキーワードとして一緒に使えるのかが分かります。

### 3. サムネイル画像

次はサムネイル画像についてです。

検索結果の質を高めるために、調べたい物の画像を見れば、広いインターネットの中からより簡単に目的の情報へたどり着くことができます。

データベースに本や論文の表紙、また画像のデータベースの場合は画像そのもののサムネイル画像があるといいです。これは日本語を読めない海外の利用者だけでなく、日本語の話せる海外の研究者で、研究の速度を上げたい人にとっても便利です。研究というものは穏やかなものばかりではなく、時に本当に急いで行う必要があるということを、私たちはみんな知っていますね。

### 4. データベース利用の指導とトレーニング

JALプロジェクトのおかげで、私はデータベースの使い方を学ぶ機会を持つことができ、とても感謝しています。

しかし、もしも私が学生の時にこのトレーニングを受けていたらどんなに助かったらうとも思いました。

もし、トレーニングを受けられれば、日本について研究する学生で、論文を書くために初めて資料やデータベース利用に取り組む人々は熱心な利用者になるでしょう。

この問題を解決するために私に提案があります。海外の事情を理解し、より協力を深めるために、JALプロジェクトが提供しているようなトレーニングに加え、データベース作成に携わる日本の図書館司書や研究者が、海外の研究機関、図書館、大学などに行って、現地で海外利用者をトレーニングしてみてもはどうでしょうか。

どうぞ、ご一考ください。

## Part 3. 「資金と人材の調達」 ウェイン・アンドリュウ・クロザース

### 資金と人材の確保

すべての研究プロジェクトにとって、資金と人材の確保で困難に直面をしているというのが残念な現実です。伝統的に、海外と日本の公的

研究機関は、博物館活動の唯一の財源を国と地方の公的資金に求めていました。ここ数年、多くの地方および中央政府が多大な負債と停滞した経済への対策として、公費削減をしてきました。この傾向は今後も続くことが想定されます。多くの場合において、芸術を扱う機関や文化プロジェクトへの資金支出は真っ先にカットされる領域の一つです。このように公的支援を失いつつある状況において、研究機関は、代替として企業や個人からの資金調達を与儀なくされています。当初は、民間から資金を得ることは、政府と民間部門の間の利益相反の懸念の管理のために非常に困難な仕事だと映るかもしれませんが、しかしながら、適切なガイドラインがあれば、とても実りある成果につながる可能性があります。

## 展覧会の後援

民間企業による、大規模な展覧会への直接的な後援は古くから行われています。展覧会后援の黎明期には、一社が独占的に後援する場合はほとんどでした。支援の見返りとして、スポンサーは展覧会入口や印刷物、展覧会広告への支援者名の表示を受けます。近年、展覧会の後援を受けるための活動はより複雑で積極的になっており、多数の企業が異なるレベルで経済支援をできるようになりました。複数のスポンサーによる後援は、展覧会の入口に多くの支援者の名前を表記しなければならないということの意味しますが、より大きな展覧会をより頻繁に開催し、来館者のより素晴らしい体験を実現することが可能になります。

## 資金援助（デジタルオンライン等）

近年、企業や個人からの資金援助は、博物館の研究や学術活動の可能性を広げる活動にもなっています。この主題は、このディスカッションのテーマに関連が深いものだと思います。ヴィクトリア国立美術館のキュレーターとして、私は多くの仕事に携わっていますが、その中でもここ2年間は、オンラインデジタル化プロジェクトの一環としての、コレクションの目録作成、画像化、公開アクセスの整備が中心的な活動となっています。プロジェクトの中で、私自身の仕事に対しては資金獲得は必要とされませんが、写真家、データベース技術者、美術スタッフを含めた多くのスタッフに、追加の援助資金が必要です。美術館では、こうした活動に関

心を持っている個人の寄付者を見つけることができました。公共の芸術機関が持っていないながら、常に一部ずつしか公開されていないような豊かな文化資産へのオープン・アクセスに情熱を持っている方を見つけることができたのです。

## 芸術作品収集とギャラリー 展示のための資金獲得

美術館の収蔵品を、現在の研究領域に見合う内容に保ち、また現代美術やデザインのトレンドを反映したものにアップデートし続けるために資金調達は非常に重要です。日本の芸術作品を調達する上で、多くの美術館が公的資金を得ることなく、もっぱら個人あるいは企業の支援に頼っています。支援の見返りとして、作品がギャラリーで展示される場合にはそのラベルに、またそれらの作品をオンラインや紙の媒体に掲載したり、新聞や雑誌に掲載する際にはキャプションにクレジットが記載されます。

## ファンドレージング

大きな博物館や文化施設にとって、協賛企業や個人の寄付者を求めるための専門家を雇うことは当たり前のことになってきました。こうしたファンドレージングの専門スタッフはキュレーターや展示企画者と協力して、特定の展覧会や調達プロジェクトと企業とのマッチングを行います。プロジェクトの趣旨と事業内容や企業アイデンティティーが関連していたり、あるいはプロジェクトにかかわることで事業やアイデンティティーの向上が期待できるような企業を結び付けるのです。個人の支援者の場合には、キュレーターがファンドレージングのスタッフに、どのような調達が計画されているかを説明し、それに対してファンドレージングのスタッフから、趣旨に合うような関心を持ってアプローチ可能な支援者が提案されます。

## 結論

適切な管理とガイダンスがあれば、企業や個人のサポーターの存在は、新しいプロジェクトをファシリテーターとしたり、プロジェクトに携わる人員を増やしたり、プロジェクトをより早く効率的に完成させることに貢献する可能性があります。

## グループ結論

日本の長くて豊かな文化の歴史は、芸術作品や印刷資料の研究によって、継続的に明らかにされ続けています。

バイリンガルな検索ポータルは日本の文化資源の可能性と利用者の幅を広げ、理解を深める可能性があります。

公的な資源によるデジタル化プロジェクトへの支援にはおのずと限界があり、研究機関と企業の連携で乗り越えることができます。

これらの提言によって、世界のユーザーが、今日の日本の多くのデジタル化プロジェクトを最大限活用する助けになれば幸いです。

日本の文化資源を広めるための協力  
COLLABORATION TOWARD  
SHARING JAPANESE CULTURAL  
RESOURCES

Aurora Canepari アウローラ・カナペーリ  
Wayne Crothers ウェイン・クロザース  
Kristin Williams クリスティン・ウィリアムズ

1

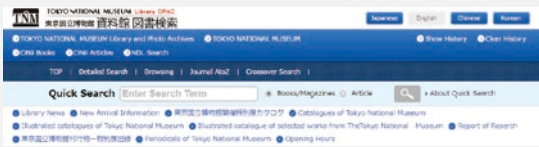
日本の文化資源をより多くの人に使ってもらうために  
FOR GREATER ACCESS TO CULTURAL  
RESOURCES

- もっと簡単に検索できるように  
For Easier Searching (Williams)
- 日本のデータベースを誰もが使えるように  
Japanese Databases for Everyone (Canepari)
- 資金と人材の調達  
Funding and Resources (Crothers)

2

もっと簡単に検索できるように  
FOR EASIER SEARCHING

- 統合的に検索
- 海外の図書館・博物館・美術館との連携拡大
- 海外からより多くの資料をインターネットで閲覧できるように



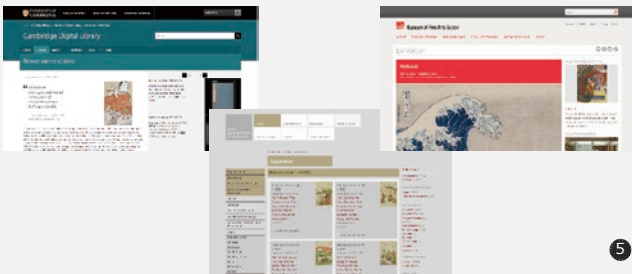
3

統合的な検索 INTEGRATED SEARCH



4

海外の図書館・博物館・美術館との連携拡大  
GREATER NETWORK OF COLLABORATING  
INTERNATIONAL INSTITUTIONS



5

海外からより多くの資料をインターネットで閲覧できるように  
ABILITY TO SEE MORE RESOURCES  
INTERNATIONALLY  
VIA THE INTERNET



館内限定閲覧

6

日本のデータベースを誰もが使えるように  
JAPANESE DATABASES FOR EVERYONE

- ・日本語を知らない海外の利用者
- ・英語とローマ字のキーワードとタイトル
- ・検索におけるサムネイル画像の重要性
- ・データベース利用の指導とトレーニング

7

海外の利用者  
INTERNATIONAL USER

- ・例：日本の美術や伝統を広めようと頑張る日本語を知らないボランティアたち
- ・日本語話者とそうでない人たちの間で掴める情報の量に大きな差がある
- ・サーチエンジンにローマ字を入力した時とひらがなを入力した時では情報量だけでなく情報の質にも差が出る

そのため…

8

英語とローマ字表記のキーワードとタイトル  
ENGLISH AND ROMAJI KEYWORDS AND TITLES

- ・英語でのキーワード
- ・ローマ字表記でのキーワード



特別な意味の日本語で、英語へ翻訳ができない言葉を表記する場合にとっても便利

- ・論文や書籍、絵画、彫刻などの芸術品について調べる時に  
**ローマ字と英語**、両方の表記があれば、他にどの単語がキーワードとして一緒に使えるのかがわかる

9

サムネイル画像  
THUMBNAİL IMAGES

検索結果の質を高めるために、調べたい物の画像を見れば、簡単に目的の情報へたどり着くことができる

**データベースに本や論文の表紙、また画像のデータベースの場合は画像そのもののサムネイル画像**があるといい

日本語を知らない海外の利用者と、日本語の話せる研究者で**研究の速度**を上げたい人双方にとって便利

10

データベース利用の指導とトレーニング  
INSTRUCTION AND TRAINING FOR DATABASE USE

日本について研究する学生で、論文を書くために初めて資料やデータベース利用に取り組む人々は、このような訓練に非常に熱心

データベース作成に携わる日本の図書館司書や研究者が、海外の研究機関、図書館、大学などに行って、現地で海外利用者をトレーニングしてみてもどうか

11

資金と人材の調達  
FUNDING AND RESOURCES

- ・ Corporate funding
- ・ Private supporters
- ・ Fundraising to realise cultural projects

12

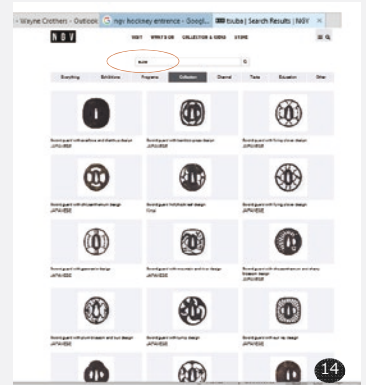
展覧会後援  
EXHIBITION SPONSORSHIP



13

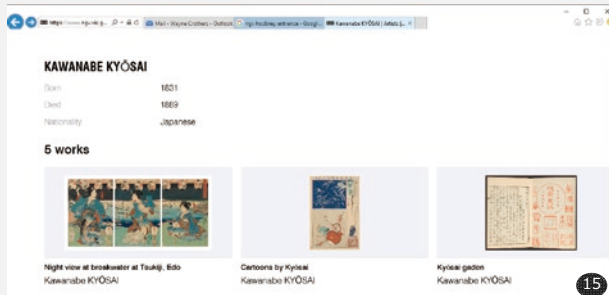
デジタル化特別プロジェクトの資金獲得

DIGITALISATION PROJECT FUNDING



14

オンライン検索  
ON LINE SEARCHING



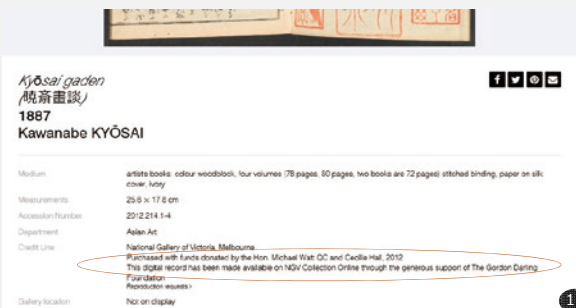
15

美術資料の選択  
SELECTION OF ARTWORK



16

クレジットライン  
CREDIT LINE OF FUNDING



17

日本の文化資源へのユーザー・フレンドリーなアクセス  
USER-FRIENDLY ACCESS TO JAPANESE CULTURAL RESOURCES

- Japan's long and rich cultural history continues to be revealed through contemporary research on artwork and printed material.
- Bilingual integrated search portals could help broaden the potential audience for Japanese cultural resources and increase understanding.
- Partnerships between institutions and corporations can help to overcome the inevitable limitations of government resources for digitalization projects.
- We hope these suggestions may help international users to utilize current Japanese extensive digitization projects

18